

他出子による地域社会組織と活動へのコミットメント

—茨城県常陸太田市里川地区を事例に—

Commitment to Community Activity by People Living Apart from Home Village
: A Case Study of Satogawa Area, Hitachiota City, Ibaraki Prefecture

○木納勇佑* 福与徳文**

KINO Yusuke, FUKUYO Narufumi

1. はじめに

過疎・高齢化が進行する中山間地域では、地域活性化を目的とした都市農村交流が行われている。徳野(2007)や芦田(2006)は、都市農村交流を進めるうえで地域との関わりが元々強い他出子^{注1)}との交流の重要性について指摘している。これまでの他出子との交流活動の報告で、生活支援や農作業手伝いに関する調査は見られるものの、出身地域における地域社会組織への関与についての報告は見られない。本報告では地域社会組織による活動が活発な地域において、他出子の地域社会組織及びその活動への関与実態を調査し、実態把握と更なる関与促進のための方策を検討する。

2. 研究の対象地と方法

1) 対象地

調査対象地は茨城県常陸太田市里川地区とした。里川地区は福島県との県境に接し、市役所からの距離は37～45kmと市内でも最も縁辺部に位置する。一方で、人口5万人の同市の中心部と人口18万人の隣接する日立市の中心部まで車で1時間弱の距離にあり、それら地域への通勤圏となっている。

里川地区は集落環境点検をきっかけに、9年前に小正月行事である「鳥追い」を復活させ都市農村交流活動を行うなど、地域社会活動・交流活動共に活発な地域である(福与2011)。

2) 調査方法

里川地区全世帯(43世帯)を対象にしたヒアリング調査を2017年3月16日～26日の計6日間実施した。全戸に戸別訪問を実施し33世帯から回答を得た。

3. 他出子と出身地域の繋がり

1) 同居人・他出子について

回答のあった33世帯について、里川地区に居住する者は113名、他出子は69名であった。他出子うち35名は、市内もしくは隣接市町村に居住しており、準隣接市町村^{注2)}を含めると44名になり6割を超える。また、同居する子ども(同居子)は8世帯で11人いた。

33世帯を子どもの居住状況によって分類すると、①他出子だけの世帯は18世帯、②他出子も同居子もいるのは5世帯、③同居子のみが3世帯、④他出子も同居子もないのは7世帯であった(表1)。今後、後継者や地域の担い手としてUターンが期待できるのは、実家に同居する兄弟のいない①に属する18世帯55名であると言える。

表1 世帯別 子どもの居住実態

	(戸・人)		
	世帯数	他出子	同居子
① 他出子のみ	18	55	—
② 同居子+他出子	5	14	7
③ 同居子のみ	3	—	4
④ 子どもなし	7	—	—
合計	33	69	11

*茨城大学大学院農学研究科 Graduate School of Agriculture, IBARAKI University **茨城大学農学部 College of Agriculture, IBARAKI University

キーワード：農村振興、中山間地域、他出子、地域社会組織

2) 他出子の地域社会組織への関与

①の18世帯に属する55名の他出子のうち、4名が里川地区の地域社会組織である「長男会」・「消防団」のいずれか、もしくはその両方に所属していた。また、所属はしていないが、高齢の親に代わって会合や草刈り作業などに参加している他出子も1名見られた(表2)。これら他出子5名は、いずれも市内もしくは隣接市町村在住の男性である。Uターン意思を持っている者が少なくとも3名おり、出身地域への帰郷を希望する他出子にとって地域社会組織への所属が地域との繋がりを得る一つのきっかけになっていると考えられる。

3) Uターン者のいる世帯の特徴

里川町会ではここ10年のうちに4世帯で他出子が帰郷している。他出子の帰郷があった世帯の特徴をみると、①実家が林業・畜産業を営んでおり生業が地域内で確立している、②町会長・副町会長など町会活動に積極的であることが挙げられる。旧地主など有力な家格の者が町会長などの役職に就く地域もあるが、里川地区は家格や親分子分関係が比較的弱いフラットな地域性であり、昔から町会役員の選出も家格に関係なく行われている。よって里川地区では、家格によって帰郷が促進されているのではなく、①・②のように地域にコミットメントしていることが帰郷の一つの要因であると推測される。

表2 町会活動を行っている他出子

町会組織	居住地	結婚	帰郷頻度	Uターン意思
1 所属	市内	既婚	週1回	あり(時期不明)
2 所属	市内	既婚	週1回	あり(時期不明)
3 参加(親の代理)	日立市	既婚	月2回	不明(話をしていない)
4 所属	市内	既婚	2月に1度	不明(話をしていない)
5 所属	市内	既婚	ほぼ毎日	あり(2年内)

4. 他出子との交流拡大に向けて

他出子は地域社会活動の活性化を図るために重要な人的資源であり、鳥追いなどの行事

に他出子がコミットメントすることは、地域社会活動を活性化させる要因になりうると言える。

しかしながら、鳥追いについて他出子が帰郷しコミットメントしたのは2世帯にとどまっている。他出子のコミットメントが少ない理由として、小正月行事である鳥追いの開催時期が1月10日前後であり、正月に帰省した他出者が参加しにくい日程であることがヒアリングから明らかになった。

一方、以前行われていた盆踊り大会には帰郷中の他出子家族も多くコミットメントしていたという証言があった。正月やお盆の時期など、他出子の帰郷しやすいタイミングに合わせて行事を実施することが、他出子の地域社会活動へのコミットメントを増加させる要因となると考えられる。

5. おわりに

本研究では里川地区での世帯に対するヒアリングに基づいて、他出子による地域社会組織への関与と地域社会活動へのコミットメントについて論じた。今後、同一地区の他出子にも調査を行い、他出子の出身地域での活動を多角的な視点から分析していく。

注釈

注1) 本研究では、「他出子」を「現在の世帯主の子どものうち、里川地域外に在住する者」と定義した。
注2) 準隣接市町村とは隣接市町村と市境を接する市町村のことを指す。

本報の調査の一部は科学研究費(課題番号15H01907)を使用しました。

参考文献

- 1) 徳野貞雄(2007):『農村の幸せ、都会の幸せ 一家族・食・暮らし』日本放送出版協会, 164-181
- 2) 芦田敏文(2006):『出子弟のふるさとへの関与実態と地域農業維持に果たす役割—北関東中山間地域農村を対象として—』農村計画学会誌 25, 473-478
- 3) 福与徳文(2011):『地域社会の機能と再生—農村社会計画論』日本経済評論社,